



有家中だより No2

令和7年 4月24日

南原市立有家中学校

校長 本 多 洋 二

学校経営における昨年度との変更点

1 学級担任制から学年担任制へ！

前号でも紹介しましたが、令和7年度は、学級担任制から学年担任制を導入します。一人一人の生徒に学年の全職員（4名～6名）が関わることで、生徒たちの可能性を多方面から見ることができ、生徒の良さを発見し伸ばすことができます。加えて、生徒の主体性、自主性を育てることにもつながります。ご理解ください。

2 定期テストを廃止し、単元テストを行います。

中間テストや期末テストなど、試験範囲が広く、どこを勉強すればよいか、取り組みにくかった面もありました。生徒によっては、範囲が広いために、最初からあきらめていた生徒も見受けられ、学力の定着に繋がっていない場合があります。そこで、一つの単元ごとに、テストを行うことで、単元を理解したかどうか確認できます。しっかり理解を深めることに重きを置いて、先に進めるようにします。（定期テストをしませんので、テスト前、部活動停止期間は設けません。）

3 画一的な宿題を廃止します。

学級全員に、同じような宿題を出すのではなく、自らが必要と捉えた課題を考え、自らに宿題として課すやり方です。自らが、取り組む必要があると考えるような授業づくりを各教科担当は行います。必要に応じて、全体が取り組むような宿題が出る場合もあります。生徒の学ぶ力、主体性を育てることがねらいです。

生徒会による歓迎行事

4月11日に歓迎行事が行われました。部活動紹介の後、生徒会主催によるレクリエーションが行われました。全校生徒が、学年の枠を外し、楽しんでいました。

＜令和7年度、学校スローガン＞
「自ら考え、動く有中生！」

＜令和7年度、生徒会スローガン＞
「生徒一人一人が輝け！
生徒がつくる有家中学校」

＜令和7年度、特に力を入れること＞
「挨拶・返事・後始末」

下の生徒が、1学期の学級委員に選ばれました。学級を上手くまとめ、リーダーシップを発揮してくれると期待しています。

1学期 学級委員（敬称略）

1年	1・5組	石川 聖耀	本多 姫奈
	2・4組	石江 理連	小嶺 陽彩
	3組	伊藤 琉真	御厨 海
2年	1・5組	田中 廉人	小松 璃愛
	2・4組	中村 龍斗	田中 きいら
3年	1・5組	御厨 空	本多 穂乃香
	2・4組	内田 琉雅	神崎 優花



任命状を手にした学級委員の皆さんです！
頑張ってくれるものと、期待しています。



5月の主な行事

- 2日(金) 授業参観・PTA 総会
- 8日(木) 尿検査(2次～9日)
- 14日(水) 体育大会予行練習
- 15日(木) 尿検査(2次予備～16日)
- 16日(金) 体育大会会場設営
- 18日(日) 体育大会(雨天時、順延)**
- 19日(月) 振替休日
- 23日(金) 英語検定
- 26日(月)・27日(火) 3年実力テスト
- 30日(火) 生徒総会

ホームページもご覧ください！

市のホームページの中に有家中学校からのお知らせのコーナーがあります。学校便りを掲載していますので、ご覧ください。下記 QR コードからアクセスしてください。すぐに見られます。



避難訓練開催！

去る4月18日に避難訓練を実施しました。南島原市消防署員の方々の立ち合いのもと行いました。当日は、消火器の使い方も実際に消火器を使って指導を受けました。いざという時に、落ち着いて対処してほしいものです。



＜消火訓練を行う石川君＞

ブレイクコーナー

自分の考えや人の受け売りです。気軽にお読みください。

以前読んだ本に「母の品格」がありました。考えさせられる内容でしたので紹介します。

『母の品格』

スーパーマーケットで売られている葡萄を一粒とって、そのまま口に入れた子どもがいました。その様子を見ていた母親はこう言ったそうです。「あっ！ダメ！洗ってないから汚いでしょ！」こんな風に子どもを注意するお母さんがいるのですね。たまたま側にいた店員さんが見かねて、「そんなことされたら困ります」と注意したそうです。するとお母さん、「食べられて困るなら、きちんとラップをして売ってください」と食ってかかったそうです。最近こんなお母さんがわりとたくさんいるようです。「自分の子どもは悪くない。悪いのは周りの人たち」という理屈にならない理屈を振り回して、子どもをかばっているお母さんたちです。こういうお母さんに育てられる子どもはいったいどうなるのでしょうか。

「ぼく(私)は悪くないもん」という未熟な精神状態のまま大人になってしまった人たちが、果たしてこの国を支えていけるのでしょうか。

葡萄一粒ぐらいで「商品がダメになる」というのは大げさだと思っていたかもしれませんが、まして、やってしまったのが子どもだということ、でもこれは怖いことです。「やってはいけないこと」に対する感覚がマヒしていくと、やがて「赤信号、みんなで渡れば怖くない」ということを平気で考えるようになってしまいます。確かに皆でやってしまえば、無理矢理にでも通ることはあるでしょう。そうやって上手く世渡りをしている人もいるかもしれません。

でも、お母さんは子どもに「あなたもそうしなさい」と教えられるのでしょうか。「可愛い子どもにそんなことは教えられない」というのがお母さんの気持ちではないのでしょうか。その気持ちが大切なのです。私はその気持ちが「母の品格」だと思います。

(多湖輝著「母の品格」より)